



令和6年 3月24日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

## 二十五世観世左近記念 観世能楽堂

前売券：発売中

料金：全席指定(税込)



S席 10,000円 A席 9,000円 B席 8,000円

C席 7,500円 学生席 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催：公益財団法人十四世六平太記念財団

協力：一般社団法人喜多流職分会

助成：  文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))  
 独立行政法人日本芸術文化振興会

# 喜多流 自主公演

令和六年 三月

西王母 谷 大作  
雲林院 佐々木多門  
車僧 塩津 圭介

### 令和6年度 喜多流自主公演について

喜多能楽堂改修工事の為、令和6年度自主公演(令和6年4月~令和7年3月)の会場は **観世能楽堂** となります。

- ◆ 指定席券前売開始 令和6年2月1日(木) 午前10時~
- ◆ 令和6年度は全7回公演です。
- ◆ 令和6年度 喜多流自主公演年間優待券(税込)  
7枚綴 56,000円 / 5枚綴 40,000円  
発売開始 令和6年1月17日(水) 午前10時~
- ◆ 会場 観世能楽堂 [観世能楽堂ホームページ](#) ▶▶



### チケット予約購入のご案内

#### インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>  
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

#### ① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

#### 電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813  
(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

#### ① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

#### ② 郵送

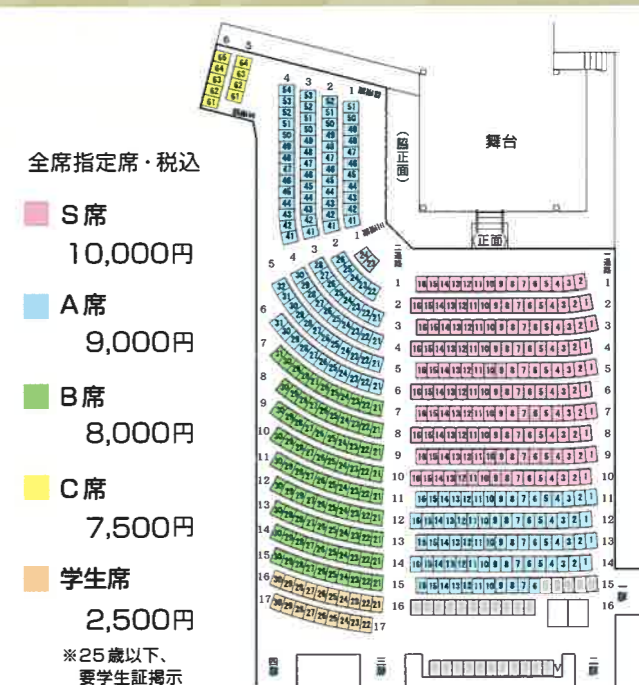
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

- ※ お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※ ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

### ご注意

- ・ロビーが混雑することがありますので、できるだけ開場時間に合わせのご来場をお願いいたします。
- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・能楽堂内に食堂はございません。GINZA SIXまたは近隣の飲食店をご利用ください。
- ・観世能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回りにご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

### 自主公演観客席御案内



### 会場案内

#### 二十五世観世左近記念 観世能楽堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階  
会場に関するお問い合わせ TEL. 03-6274-6579 (観世能楽堂)  
観世能楽堂ホームページ <https://kanze.net/>

公演に関するお問い合わせ TEL. 03-3491-8813 (喜多能楽堂事務局)  
喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>



- ・銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A2出口、A3出口より徒歩2分  
※ 銀座駅とGINZA SIX地下2階をつなぐ連絡通路がございます
- ・東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
- ・有楽町駅 JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分
- ・車でお越しのお客様 GINZA SIX内に併設の駐車場がございます。詳しくはGINZA SIXホームページにてご確認ください。
- ・能楽堂へは、三原通り側・トラペローソソ横のエスカレーター・エレベーターをご利用いただくのが便利です。中央通り側入口からは、能楽堂までの直行エレベーター・エスカレーターはございません。
- ・土曜日・日曜日・祝日の中央通りは、歩行者天国となり、平日と異なりますのでお車でご来場の際はご注意ください。

能

シテ連・侍女 谷 友矩  
後シテ・西王母 谷 大作  
前シテ・女

### 西王母

ワキ・穆王 殿田謙吉  
ワキ連・侍臣 野口琢弘  
ワキ連・侍臣 小林克都

大鼓 柿原光博 太鼓 小寺真佐人  
小鼓 飯富孔明 笛 小野寺竜一

アイ・官人 吉田信海

後見 友枝昭世  
内田安信

地謡 狩野祐一 粟谷充雄  
佐藤寛泰 長島茂  
大島輝久 出雲康雅  
佐藤陽 狩野了一

狂言

### 腰祈

シテ・祖父 大藏彌右衛門

アド・郷の殿 大藏康誠  
小アド・太郎冠者 大藏章照

休憩(二十分)

能

後シテ・在原業平の霊  
前シテ・老人

### 雲林院

ワキ連・従者 村瀬 提  
ワキ・蘆屋公光 福王和幸  
ワキ連・従者 矢野昌平

大鼓 柿原弘和 太鼓 桜井 均  
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 一噌幸弘

アイ・北山辺の者 大藏基誠

後見 香川靖嗣  
松井 彬

地謡 高林昌司 粟谷浩之  
佐藤寛泰 中村邦生  
友枝真也 大村 定  
狩野祐一 友枝雄人

休憩(十分)

能

後シテ・天狗  
前シテ・山伏

### 車僧

ワキ・車僧 則久英志

大鼓 亀井洋佑 太鼓 林 雄一郎  
小鼓 曾和伊喜夫 笛 栗林祐輔

アイ・愛宕山の溝越天狗 大藏彌太郎

後見 塩津哲生  
金子龍晟

地謡 高林昌司 高林呻二  
佐藤陽 金子敬一郎  
大島輝久 長島 茂  
谷 友矩 内田成信

### 附祝言

終了予定時刻 十七時頃

#### 西王母(せいおおぼ)

中国は周の時代。宮殿にまします穆王のもとに一人の女が、三千年に一度だけ花が咲き実を結ぶという仙桃の花を献上しようとして来る。女は、奇特にもこの稀な桃花が花開いたのも穆王の治世が泰平であるからだ、とその仁政を讃え桃花を捧げる。そして自分は西王母の化身であると明かすと、今度は桃の実をも捧げようと言い、天へと上っていった。(中入)  
穆王が管絃を奏して西王母の来臨を待っていると、数多の鳥たちが舞い飛ぶなか、西王母が真の姿を現す。有り難い桃の実を穆王に捧げ舞を舞い、花も人も酔うばかりの酒宴のうちに、西王母は天上へと帰ってゆくのだ。

(約七十分)

#### 腰祈(こしいのり)

寿命めでたい祖父(おおじ)のところへ、修業を終えた郷の殿(孫の愛称)が帰郷する。郷の殿の久しぶりの訪問に、嬉しくて仕方ない祖父だが、成長して山伏になった孫を懐かしむ。

すっかり歳をとって腰のまがった祖父を気の毒に思った孫は、祈祷で腰を治そうと試みるが…。

(約二十分)

#### 雲林院(うりんいん)

摂津国蘆屋の里の公光(きんみつ)は幼少の頃より伊勢物語の愛読者だった。ある日の夢に伊勢物語「昔男」の根本とされる在原業平と、二条の后が現れ、紫野の雲林院を指し示したことから、思い立って都へ上り雲林院へと参詣する。折しも桜の季節で数多に咲き誇っているのを見て一本枝を折ったところ、老人が現れそれを咎める。いずれは散る花ではないかという公光に對して、老人は枝ごと手折ることを非難する。二人はお互いに古歌を引用して己の正当性を訴えながらも、美しい春の景色を賞翫する。公光が、霊夢により雲林院を訪れたことを告げると、老人は実は自分が業平であることをほのめかし、ここに居てなお夢の告げを待てと言いつつ消えてゆく。(中入)

やがて木陰に仮寝する公光の夢枕に在原業平の霊が現れる。業平の霊は公光に「伊勢物語」の秘事を伝え、優雅に舞う内に夜は明け、公光が覚めるとともに夢と消えてしまうのだった。

(約九十分)

#### 車僧(くるまぞう)

牽く牛もなく法力にて動く車で往来する「車僧」と呼ばれている僧がいた。ある日、嵯峨野の辺りに車を留めて景色を眺めていると、山伏姿の者が近づき、禅問答を仕掛ける。山伏は車僧を魔道に引き入れようとするが、僧は応じない。やがて山伏は自分が愛宕山の天狗、太郎坊であり、我が庵室に来るように言い残し、黒雲に乗って飛び去るのだった。(中入)  
やがて太郎坊は天狗の姿で現れなおも車僧を魔道に誘引し「行力くらべ」を促すも、車僧の法力にことごとく失敗し、ついに彼の威力に恐れをなし、魔障を和らげついに僧に合掌して消え失せるのだった。

(約六十分)

## 令和六年 四月 自主公演番組予告

令和六年 四月六日(土) 正午始

●会場 観世能楽堂

前売開始 令和六年二月一日(木) 午前十時

巴 金子敬一郎

小塩 友枝真也